

令和5年度芦安小学校後期学校評価・教職員自己評価の結果と考察について

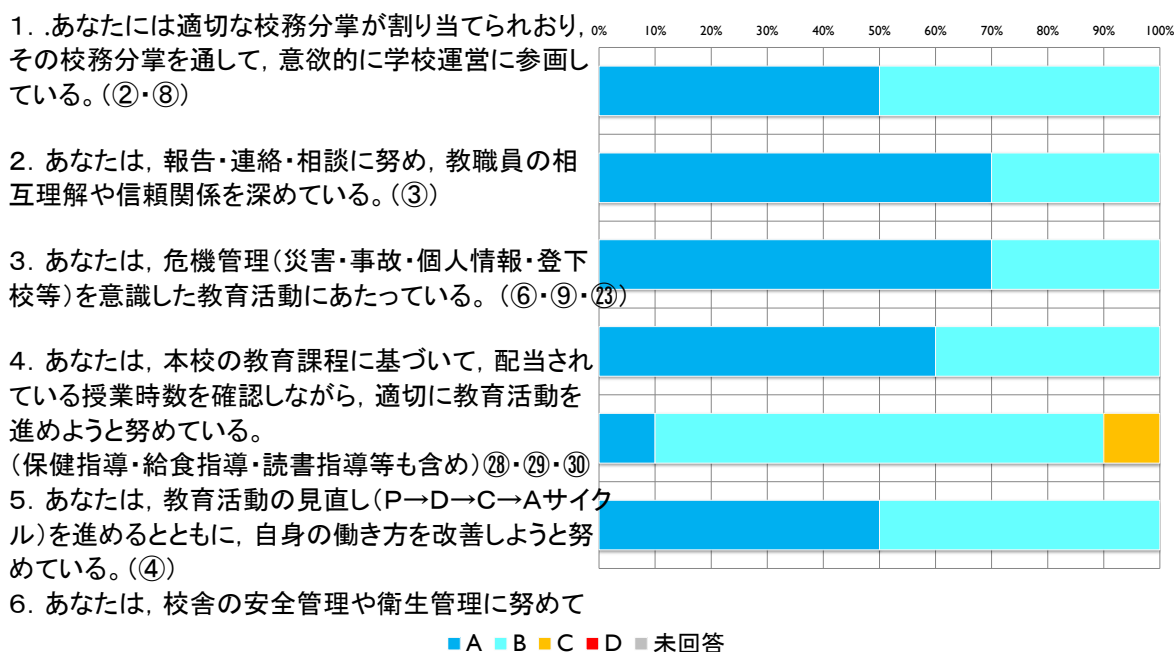
評価基準 A：そう思う B：ややそう思う C：ややそう思わない D：そう思わない 10名回答

評価点数 A：4点 B：3点 C：2点 D：1点

I 学校運営・学校経営

具体的評価項目	A	B	C	D	未回答	評価	前期
1. あなたには適切な校務分掌が割り当てられおり、その校務分掌を通して、意欲的に学校運営に参画している。(②・⑧)	5	5	0	0	0	3.5	3.3
2. あなたは、報告・連絡・相談に努め、教職員の相互理解や信頼関係を深めている。(③)	7	3	0	0	0	3.7	3.7
3. あなたは、危機管理(災害・事故・個人情報・登下校等)を意識した教育活動にあたっている。(⑥・⑨・⑳)	7	3	0	0	0	3.7	3.7
4. あなたは、本校の教育課程に基づいて、配当されている授業時数を確認しながら、適切に教育活動を進めようと努めている。(保健指導・給食指導・読書指導等も含め)㉘・㉙・㉚	6	4	0	0	0	3.6	3.6
5. あなたは、教育活動の見直し(P→D→C→Aサイクル)を進めるとともに、自身の働き方を改善しようと努めている。(④)	1	8	1	0	0	3.0	3.4
6. あなたは、校舎の安全管理や衛生管理に努めている。(㉛)	5	5	0	0	0	3.5	3.8

I 学校運営・学校経営



○自由記述

△1について

与えられた校務文書対応をしていますが、全てに対応できていないというのが現状です（平和・環境教育については、自分自身は対応できていないと思っています。すみません。）

○2について

自分ではそのつもりですが、「不十分・不足」もあるでしょう。遠慮なくお知らせください。

報告・連絡・相談は小希望校故に大変やりやすいと感じています。強みとしていけるといいなと思います。

○4について

通常の学習指導だけでなく、保健指導・給食指導・読書指導等においても、担当の先生方だけでなく、みんなで協働して指導に当たっていると思います。ありがとうございます。

貴重な授業時間のなかで、保健や給食などに時間をいただけていることに感謝しています。

○5について

日々、次から次へと「やること」が押し寄せてくる中で、P→D→C→Aサイクルを回していくことは、簡単ではないと感じています。しかし大切なリフレクションですので、できるだけやっていきましょう。それが結局「業務改善・働き方改革」にもつながっていくと考えています。

○自己評価（達成状況・改善策）

学校運営・学校経営について

全体的に肯定的な意見が多かった。報告・連絡・相談といった情報交換がしっかり行われている点、また時間が限られている中、PDCAサイクルを活かしながら教育課程を進めていることは、これまでの成果が出ていると考える。

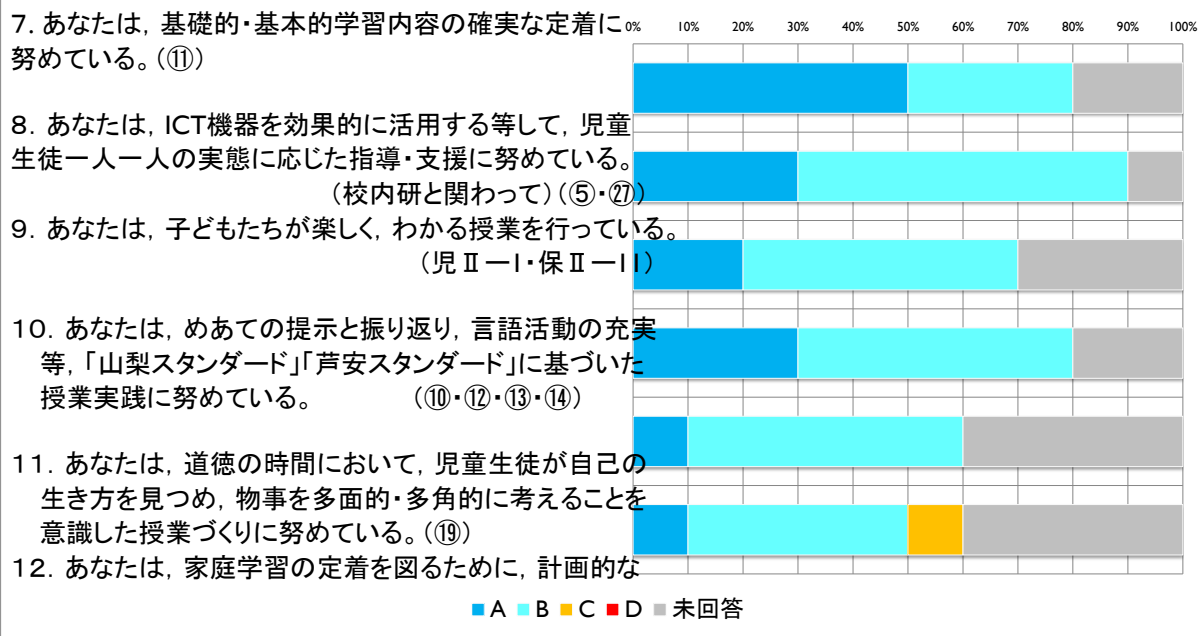
図書指導・保健指導・給食指導についても、職員数が少ない中、全職員の共通理解のもと進めることができている。

校舎の安全管理等については、今後も職員全体で共通理解を図りながら改善を図りたい。毎月行っている安全点検についても、再度確認をしながら、これまで同様修繕箇所等を早期に発見し対応していく。

II 学習指導

具体的評価項目	A	B	C	D	未回答	評価	前期
7.あなたは、基礎的・基本的学習内容の確実な定着に努めている。（⑤・⑦）	5	3	0	0	2	3.6	3.6
8.あなたは、ICT機器を効果的に活用する等して、児童生徒一人一人の実態に応じた指導・支援に努めている。（校内研と関わって）（⑤・⑦）	3	6	0	0	1	3.3	3.3
9.あなたは、子どもたちが楽しく、わかる授業を行っている。（児Ⅱ-1・保Ⅱ-11）	2	5	0	0	3	3.3	3.4
10.あなたは、めあての提示と振り返り、言語活動の充実等、「山梨スタンダード」「芦安スタンダード」に基づいた授業実践に努めている。（⑩・⑫・⑬・⑭）	3	5	0	0	2	3.4	3.4
11.あなたは、道徳の時間において、児童生徒が自己の生き方を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることを意識した授業づくりに努めている。（⑱）	1	5	0	0	4	3.2	3.0
12.あなたは、家庭学習の定着を図るために、計画的な家庭学習の手立てをしていますか。（「家庭学習の手引き」の活用も含む）（⑭）	1	4	1	0	4	3.0	4.0

Ⅱ 学習指導



○自由記述

○7について

担任外なので「その他」にしました。各先生方は、それぞれの持ち場で、子どもたちの実態に応じて、懸命に努力してくださっており、成果も確実に出ています。

○8について

各先生方の利活用状況はいかがでしょうか。ICT機器は、あくまで「手段」ですから「目的化」させないことが肝要ですが、未来を生きる子どもたちにとって、ICT機器の利活用は「必須の力」であることも事実です。使っていなければ「情報モラル教育」も成り立ちません。ベネッセのオンラインサポートを活用したり、県教委から出された「GIGAワークブック」などを冬休み中に閲覧したりながら「授業の中でのより効果的な活用」について、各自学んでください。

○9について

3年生の社会科を担当しました。地図記号の定着度もかなり上がりました。タブレットを活用した「見学のまとめの記録」等も、子どもたちはよくがんばっていました。子どもたち自身が「楽しさや達成感を感じたかどうか」については、厳密には「不明」なので、その他としました。自分としては、ある程度の手ごたえはありました。

456年生のタグラグビーについては、多くの子が初めて接する運動種目だったにもかかわらず、意欲的に活動できていたのではないかと思います（授業の様子や学習カードの記述から察するに）。各担任の先生方のご協力のおかげです。

○10について

毎回・毎時間、スタンダードを意識した授業をつくっていくことは大変ですね。スタンダードの「すべての要素」を45分間の中に収めることは難しいですが、個々の要素、例えば「ノート作業」「話し合い等での言語活動」や「学習内容の振り返り」等を、一つだけでもよいので、意識化していければ、授業改善につながると思います。

○11について

先日の米山先生の授業は、多角的・多面的な意見が多様に生まれ、大変勉強になりました。授業提案に心より感謝します。道徳の授業って、あのように工夫すると大変やりがいのある授業になりますね。

教壇教諭でないため、道徳時間は行っていません。

△12について

多くの家庭が、取組の肝である「取り組み表」について肯定的・前向きに取り組んでくれている中、否定的にとらえている家庭もあり、残念です。取組の意義とあり方について、説明責任を果たしていくと共に、児童自身の「意識や思い」も尊重する中で、異議を申し立てている家庭については、慎重に対応していく必要を感じます。選択性もアリ？

○自己評価（達成状況・改善策）

学習指導について

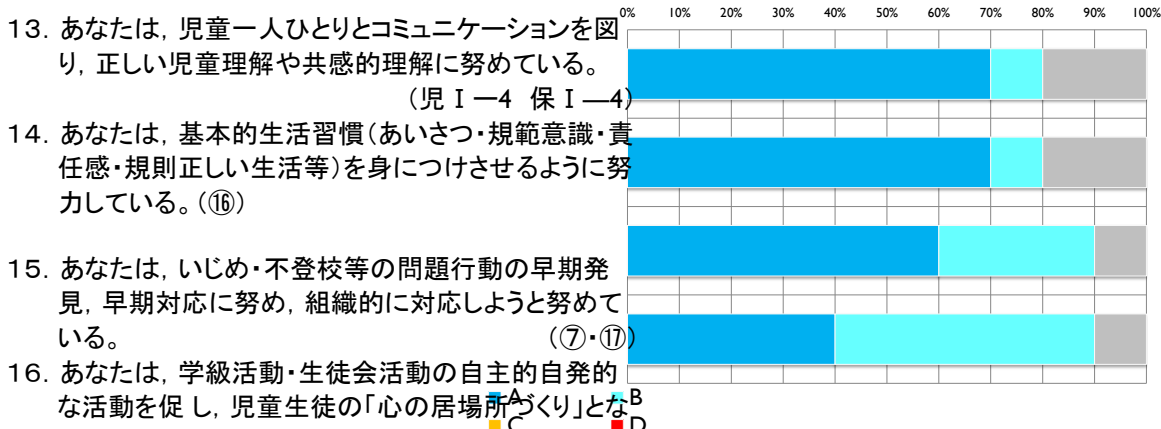
わかる授業・楽しい授業について、各担任が日頃から教材研究等を丁寧に行っていることがわかる。このことは、児童や保護者のアンケートからも読み取ることができる。またICTの活用についても、それ自体が目的とならないよう、授業の中に位置づけ、子ども達の学習の補助として活用できてきた。2学期に積極的に活用を進めた成果も出てきていると考える。また道徳の授業についても校内研究の授業研究をはじめとして、研修の機会をもつことで、各担任が授業改善の意識を持つことができたと考える。

宿題をはじめとした家庭学習については、その必要性を考慮しながら、児童一人一人に合った学習内容を考えていく必要もある。今後の課題としたい。

Ⅲ 生徒指導

具体的評価項目	A	B	C	D	未回答	評価	前期
13. あなたは、児童一人ひとりとコミュニケーションを図り、正しい児童理解や共感的理解に努めている。(児I-4 保I-4)	7	1	0	0	2	3.9	3.6
14. あなたは、基本的生活習慣(あいさつ・規範意識・責任感・規則正しい生活等)を身につけさせるように努力している。(16)	7	1	0	0	2	3.9	3.9
15. あなたは、いじめ・不登校等の問題行動の早期発見、早期対応に努め、組織的に対応しようと努めている。(7・17)	6	3	0	0	1	3.7	3.9
16. あなたは、学級活動・生徒会活動の自主的自発的な活動を促し、児童生徒の「心の居場所づくり」となる学校、学級づくりに努めている。(18)	4	5	0	0	1	3.4	3.5

Ⅲ 生徒指導



○自由記述

○13について

児童一人ひとりの実態と状況に応じて、各先生方はとても細やかに丁寧に対応してくれていると思います。頭の下がることばかりです。今後も縦と横の情報交換を密にして、多くの教職員の力で、児童理解を進めていきましょう。

○14について

生徒指導主任を中心に、各職員の意識的な働きかけにより確実に成果は出ていると思います。但し「それぞれの達成（OK）ラインをどこにするか」という点は、各教員の「教育観」および「児童の実態」に応じた「違い」があるようにも感じます。でも、これは当然のことです。大切なのは、各教員がまずはこうした「願いや思い」をもち、それらを忌憚なく出し合いつつ児童の教育に当たることでしょう。私たち自身が「主体的・対話的」に学び合いたいと思っています。

相手も人間である以上、こちらの思いや願いが通じないこともあります。教育とは、もともと時間がかかるもの。教員同士のコミュニケーションをさらに密にして、学校全体が「ONE TEAM」になって、ねばり強く取り組んでまいりましょう！

○15について

学校生活アンケートをもとにして、課題が見つかったら迅速に、適切に対応していただいています。ありがとうございます。取組は継続性が求められるので、これからも情報交換をしつつ、取り組んでいきましょう。

今学期も生徒指導主任を中心に、先生方の積極的な情報交換により、子どもたちが元気に学校生活を送ることができました。規模が小さい学校だからこそ、情報交換ができます。今後もよろしくお願い致します。

○16について

それぞれの学級担任が、児童の実態を熟知しつつ、適切に対応してくださっていると思います。担任だけでは抱えきれない案件もありますので、そうした場合はONE TEAMで乗り切りましょう。

○自己評価（達成状況・改善策）

生徒指導について

児童とのコミュニケーションについては、どの職員も積極的に児童と関わり、表情や態度から気持ちを読み取りながら接することができていると考える。また、いじめ等の対応についても、生徒指導主任を中心にアンケートをとったり、面談をしたりすることで児童の状況を把握すると共に、情報交換を進めてきた。今後も職員の共通理解のもと、すべての児童が楽しく生活できる学校を目指していきたい。

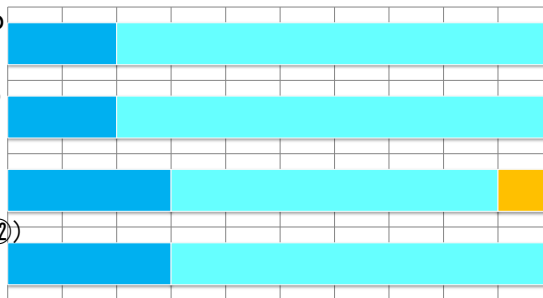
IV 保護者・地域との連携

具体的評価項目	A	B	C	D	未回答	評価	前期
17. あなたは、保護者や地域に、学校の教育活動について情報の提供・公開を行っている。(20)	2	8	0	0	0	3.2	3.4
18. あなたは、保護者や地域の願いや、学校に対する要望等を聞くなどの機会を工夫し、情報の収集に努めている。(21)	2	8	0	0	0	3.2	3.1
19. あなたは、PTA活動のより良い推進のため、教職員や保護者が積極的に関わるよう努めている。(22)	3	6	1	0	0	3.2	3.4
20. あなたは、児童の登下校等における安全確保に、地域や保護者とともに積極的に関わるよう努めている。(保I-9)	3	7	0	0	0	3.3	3.5

IV 保護者・地域との連携

17. あなたは、保護者や地域に、学校の教育活動について情報の提供・公開を行っている。(20)
18. あなたは、保護者や地域の願いや、学校に対する要望等を聞くなどの機会を工夫し、情報の収集に努めている。(21)
19. あなたは、PTA活動のより良い推進のため、教職員や保護者が積極的に関わるよう努めている。(22)
20. あなたは、児童の登下校等における安全確保に、地域や保護者ととともに積極的に関わるよう努めて

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■ A ■ B ■ C ■ D ■ 未回答

○自由記述

○17について

本校は、先生方のご努力により、十分に情報の提供や公開をしていると思います。大変なのは児童より、さらに対応の難しい保護者がいることです。一人で抱え込まずにONE TEAMでやっていきましょう。

○18について

様々な、多彩で多様な要望・要求が寄せられることがありますが、教頭先生を筆頭に、各担当や担任が真摯にご対応いただいていると思います。今後もアンテナを高くして、情報交換していきましょう。

○20について

放課後児童クラブへの送迎や、朝の登校の付き添い等、教頭先生と先生方には、感謝しかありません。

○自己評価（達成状況・改善策）

学校の様子やクラスの様子などについて、各担任が積極的に情報公開を行っていることがわかる。また、個別懇談をはじめ、普段から連絡帳等でこまめに家庭と連絡を取るなど、保護者や地域の願いや要望を聞き取るように心がけている点は十分に評価できると考える。今後も保護者や地域の要望をきくと共に、学校の考えも伝えながら、児童にとって最善の教育活動を模索していきたい。

PTA活動については、前期より若干数値が下がったが、2学期の活動が少なかったことも影響していると考えます。

本校は、保護者が児童の送迎等で来校する機会も多いので、積極的に関わりながら保護者との連携を深めると共に児童の情報交換を行っていききたい。

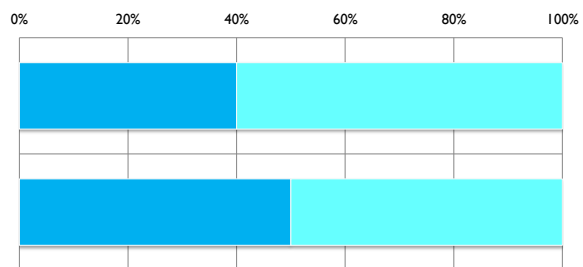
V 学校の特色ある取組

具体的評価項目	A	B	C	D	未回答	評価	前期
21. あなたは、小中合同活動や地域の人々との交流、自然体験活動等を通して、児童生徒の豊かな人間性やコミュニケーション能力をはぐくんでいる。(24・25・26)	4	6	0	0	0	3.4	3.4
22. あなたは、小中一貫校としての活動に対し、小中それぞれの教職員と連携協働して取り組もうと努めている。	5	5	0	0	0	3.5	3.5

V 学校の特色ある取組

21. あなたは、小中合同活動や地域の人々との交流、自然体験活動等を通して、児童生徒の豊かな人間性やコミュニケーション能力をはぐくんでいる。(24・25・26)

22. あなたは、小中一貫校としての活動に対し、



■ A ■ B ■ C ■ D ■ 未回答

○自由記述

記述なし

○自己評価（達成状況・改善策）

学校の特徴ある取組について

2学期は、小中一貫教育を活かした取組を進めることができた。職員の自己評価は前期と変わらないが、小中合同の校内研究では、その特色を生かした研究の成果を上げることができた。地域の人々との交流についても、今年度も昨年度に引き続き芦安ふれあい運動会の中で、子どもたちとお年寄りが一緒になって宝拾いをしたり、地域の方々と綱引きを行ったりすることができた。3学期は、ボルダリングの活動を通して、芦安ファンクラブの方々との交流もあるので、ふれあいの時間を大切にしていきたい。

VI その他（自由記述）

●養護教諭は兼務ですので、引率がかかわる行事などについては、日程調整などをぜひお願いします。（今年の登山はイレギュラーでしたが、1週間ごとは体力的にも、他の仕事バランスにも、家庭的にも大変でした）